

類型 ( 共通 ・ 文 ・ 理 )

履修規定 ( 必修 ・ 選択 )

学習の目標		使用する主な教材					
1 美術に対する興味を高め、創造の喜びや創造的な生活の大切さを理解する。 2 表現力を高め、個性を生かした主体的で創造的な表現を深める。		・教科書『美術2』光村図書					
期	月	学習内容	学習の具体的内容とねらい	評価の観点			
				関	発	技	鑑
一 学 期	4	ミニチュアテーブル&チェア制作	・テーブルとチェアの構造について理解する。	◎			○
	5		・木材の特性を理解する。	◎			○
	6		・アイディアスケッチをする。		◎		
	7		・バルサ材に下描きをする。 ・切断、組立てを行う。 ・着色する。 ・保護剤を塗る。 ・お互いの作品を鑑賞する。		○	◎	◎
二 学 期	8	黒板アート	・黒板アートについて理解する。	○			◎
	9		・グループに分かれてアイディアスケッチをする。 ・協力して制作する。 ・お互いの作品を鑑賞する。	○	◎	○	◎
	10		・一点透視図法を理解する。 ・アイディアスケッチをする。	◎	◎		○
	11		・下描きをする。 ・色鉛筆を使って彩色をする。 ・お互いの作品を鑑賞する。	○	○	◎	◎
三 学 期	1	風景画	・風景画の技法を理解する。 ・タブレットで風景を撮影する。	◎		○	○
	2		・画像を選定する。 ・下描きをする。 ・着色する。 ・お互いの作品を鑑賞する。		○	◎	◎
	3		・日本美術について学ぶ。 ・一年間を振り返る。	○			◎
評価の方法	(美術への関心・意欲・態度) ・美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心を持ち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。 (発想や構想の能力) ・感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し、創造的表現を工夫する。 (創造的な技能) ・創造的な表現をするために材料・用具を生かして表現する技能を身に付けている。 (鑑賞の能力) ・作者の心情や意図と表現の工夫、生活や自然と美術の関連、日本の美術の歴史などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。						
	・完成作品を中心に評価する。 ・創作への努力、姿勢、工夫の仕方、丁寧さを評価する。 ・学習した内容、表現技術の定着度も評価する。 ・学年末の成績は各学期の成績をもとに算出する。						

